

重要文化財大石平遺跡出土品保存修理事業（令和4年度）

大石平遺跡出土品は、発掘・復元されてから40年以上経過しているため、当時の接着剤が劣化し接合部分が脆弱になっています。また復元の際に土器の破片が無い部分を石膏で埋め、白い石膏を塗った絵の具も退色してきました。これらを安全な状況で展示・保管するには修理が必要です。そこで令和2年度から国庫補助事業（国宝重要文化財等保存・活用事業）を活用して保存修理を行っています。

修理は、表面の汚れや最初に組み立てた際の接着剤等を洗浄しながら解体します。解体した破片をアクリル樹脂で強化し、ゆがみを補正しながら再度組み立てます。破片がない部分はエポキシ樹脂を充填し、充填部分は周囲の土器と区別出来るように似た色調で彩色をします。

令和4年度は土器3点（壺形土器、深鉢形土器、鉢形土器）、土製品1点（鐸形土製品）を修理しました。

●土製品（鐸形土製品13）

鐸形土製品は13点指定されています。その中でも、この鐸形土製品13は、線で描かれた文様が明瞭な優品です。頂部と下面の一部が欠損し石膏で復元されていました。尖っていた石膏を外したところ、平らな頂部の一部が確認されました。さらに上部の穴もそのまま残っていました。穴は正面から裏面に向かい少し上方向に空けられていることがわかりました。また土製品の内部は黒くなっています。裏面にも黒く変色している部分があります。これは、火に当たったことで黒く変色したものとも考えられていますが、使われ方はまだ解明されていません。
／高さ6.5cm幅5.2cm奥行4.5cm



修理前：頂部は石膏で丸く復元されている。



上面



左側面



正面



右側面



裏面

修理後：
○正面を中心とし、
90度回転した展開
写真



下面



復元後、彩色前：頂部と穴を確認
左）正面 右）裏面

●土器 1（壺形土器 3）

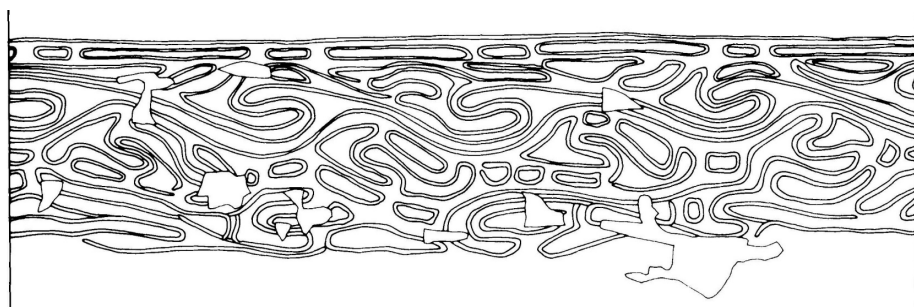
修理前は接合面のすき間が多く、石膏部の着色が目立っていました。修理により、曲線で描かれた文様の構成が明瞭になりました。曲線文様の高まりのある部分に薄い赤色が残っています。本来は高まりのある部分全体を赤く塗られていた彩文土器と考えられています。高さ22.7cm口径12.3cm底径9.6cm最大径20.5cm



修理前



修理後



左) 実測図、濃い色部は赤彩されていた箇所
右) 文様展開図

●土器 2（深鉢形土器 4）

無文の深鉢形土器です。口縁が一部欠けていますが、その他の破片は全て揃っています。外側は広範囲に黒く変色しています。炭化物が付着している箇所もあります。土器内部の底も黒く変色しています。これらは煮炊き時に火を受けたり、煮炊き時の吹きこぼれの痕跡です。

今回、解体したことで、土器の割れ口に炭化物が付着している破片があることがわかりました。底部に近い破片A-Eは、土器使用時にひび割れしている箇所に煮炊きしている内容物がしみこんだものと考えられます。また、口縁部（破片F）にも炭化物が付着しています。これは注ぎ口として利用するため打ち欠いた部分であり、吹きこぼれによる付着と考えられます。

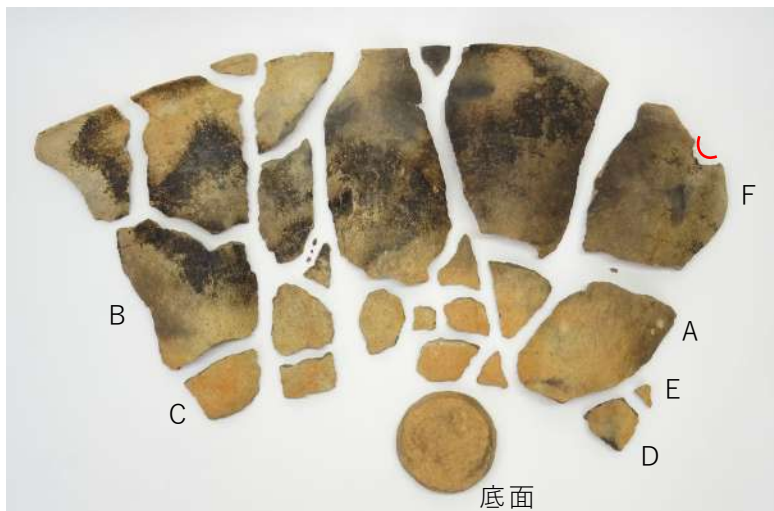
当遺跡では、文様のある土器にこのような痕跡が少ないことから、土器を使い分けていたことが考えられます。

高さ35.0cm口径25.5cm底径9.8cm



修理前

解体

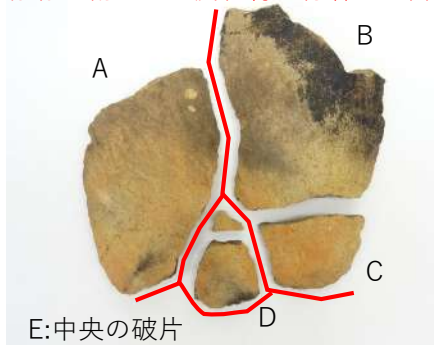


赤線は割れ口に炭化物が付着した箇所



破片A 断面全面に炭化物付着

破片D
断面に炭化物付着。内部も黒く変色している。



E:中央の破片



破片B内面 向かって右断面にのみ炭化物付着



破片F 口縁上部の割れ口に付着した炭化物。炭化物は外側にもまだらに付着している。

左) 炭化物が付着した口縁の欠損部分は、意図的に打ち割って注ぎ口として利用していたことが考えられるため、そのまま残し、取り外し可能なパーツを製作した。

修理後



取り外し可能なパーツをセットした状態



土器内部底も黒く変色

●土器 3（鉢形土器 3）

文様部分を赤く彩られた鉢形土器です。上部に三つの頂部をもち、底部に台がつきます。当遺跡の彩文された土器の中では、赤い色が鮮明に残っている優品です。底部と上部に欠損部が多いことから、傾いた状態で復元されていましたが、この修理で歪みのない形であることがわかりました。上部の頂部3つは均等に配置され、頂部の高さは3つともほぼ同じです。

すき間を樹脂で埋めて、樹脂の上には周囲の土器片に近い色を塗りますが、本物と区別できるように色味を暗めもしくは薄めに着色しています。着色により文様構成や彩文がより明瞭になりました。高さ12.1cm口径26.1cm底径9.9cm



上) 修理前



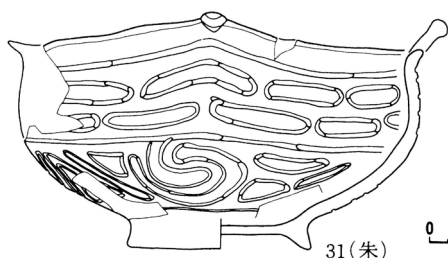
下) 修理後



上) 樹脂充填後、着色前



下) 修理後



31(朱)

0 10cm

出典：
青森県埋蔵文化財調査報告書
第103集『大石平遺跡Ⅲ』
1分冊187p 図123-31



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

本事業は、文化庁国宝重要文化財等保存・活用事業国庫補助金の交付を受けて実施しています。

重要文化財大石平遺跡出土品保存修理事業（令和3年度）

令和2年度から国庫補助事業（国宝重要文化財等保存・活用事業）を活用して重要文化財大石平遺跡出土品の保存修理を行っています。令和3年度は土器3点（鉢形土器、壺形土器、深鉢形土器）の修理を実施しました。

これらは、接合部分が脆弱になり、最初の復元時に石膏部分を塗っていた絵の具が土器に付着していました。また最初の組み立て時のゆがみもありました。

修理は、表面の汚れや最初に組み立てた際の接着剤等を洗浄しながら解体します。解体した破片を樹脂で強化し、ゆがみを補正しながら本来の形に組み立てます。破片がない部分はエポキシ樹脂を充填し、充填部分は周囲の土器と区別出来るように似た色調で彩色をしています。

修理を終えた鉢形土器と壺形土器は、三内丸山遺跡センター令和4年夏季特別展で展示される予定です。

●鉢形土器 5

鉢形土器は、重要文化財手形・足形付土製品とともに考古常設展示室で通年展示をしていた資料です。大きさは口径13.5cm、高さ9.5cm、底径4.5cmです。外面は縄文を地文とします。内外面に曲線や連続した山形文で幾何学的文様が描かれています。内側の底にも円形文様が施されています。このように内外面に施文された土器は全国的にも稀な貴重な土器です。今回の修理により、これらの文様がより明瞭になり、見やすくなりました。あわせて口縁が緩やかな三つの波状であることもわかります。



考古常設展示室で展示されていた状況



修理前：復元部分の塗りが目立つ。



修理後

●鉢形土器 5



a



b



c



d

修理後：a b c d の順に90度回転



修理後：内面

●壺形土器 1



修理前：胴部左側が膨らんでいる。



修理後：左右均等に復元されている。



a



b



修理後：真上から

修理後：展開写真
a b c d の順に90度回転

大きさは高さ46.2cm、口径13.0cm、胴径32.6cm、底径14.2cmです。三つの波状口縁の突起は鋭利であり、突起の外側と内側には粘土を貼り付けて装飾が施されています。三波状口縁直下のくびれ部には把手があります。胴部の文様は沈線だけで描かれています。



c



d

●深鉢形土器 9



修理前：接合面にすき間が多い。



修理後



a



b



修理後：真上から

修理後：展開写真
a b c d の順に90度回転

大きさは口径16.8cm、高19.5cm、底径6.7cmです。口縁は六つの緩やかな波形をなしています。外面には2本の沈線で縦方向に連続した弧状文が描かれ、全体を巡っています。弧状文の間には地文の縄文が残っています。



c



d

重要文化財大石平遺跡出土品保存修理事業(令和2年度)

大石平遺跡は六ヶ所村尾駁沼の北側の段丘上にある縄文時代後期前葉（約4200～3900年頃）の集落遺跡です。住居跡49軒、土坑776基、配石遺構18基等が確認されています。土器をはじめ、土製品733点、石製品254点が出土しています。このうち漆塗切断壺形土器や手形・足形付土製品4点を含む198点が平成7年に重要文化財に指定されました。

これまで、漆塗切断壺形土器や土製品・石製品・石器は展示をしてきましたが、土器は経年劣化により接合面が脆くなっているため、資料保護の観点から公開を控えてきました。これらを展示に活用するには、劣化を止め形を復元し資料自体を強化する保存修理が必要になります。今年度から、出土品のうち脆弱になった土器18点の保存修理を国庫補助事業（国宝重要文化財等保存・活用事業）を活用して行うことになりました。

令和2年度は深鉢形土器3点の修理を実施したので報告します。修理は、表面に付着した汚れや過去の修理痕を筆を使ってアルコール・精製水で洗浄しながら、土器を解体し、強化処理（アクリル樹脂 パラロイドB72）を施したのちに、土器を組み立てしました。土器の隙間はエポキシ樹脂（バイサム）で充填し、充填部分はアクリル樹脂やアクリル絵の具・岩絵の具で彩色をしました。

修理が完了した資料は、今後、館内外での展示に活用していきます。

（学芸課 杉野森淳子）



深鉢形土器 2（高さ38.2cm口径29.8cm）
修理前



深鉢形土器 2 修理後



深鉢形土器 2 解体時



深鉢形土器 6 (高さ32.7cm口径22.4cm)
修理前



深鉢形土器 6 修理後



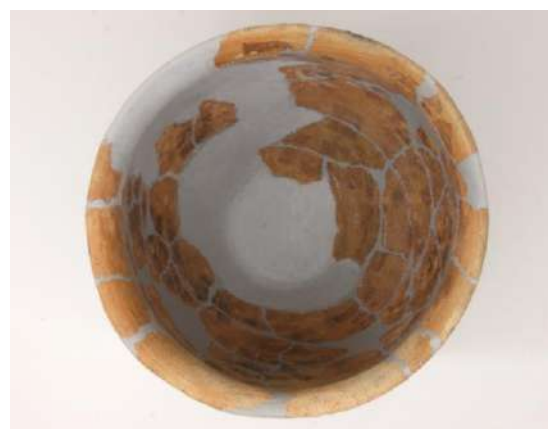
深鉢形土器 7 (高さ33cm口径24.4cm)
修理前



深鉢形土器 7 修理後



深鉢形土器 7 修理前 (内面)
ガムテープとガムテープ痕跡が多数ある。



深鉢形土器 7 再組み立て充填後 (内面)
ガムテープは取れたが、テープ痕は一部残る。